

図9

PCサイト 検索都道府県別アクセス数 (2013年)

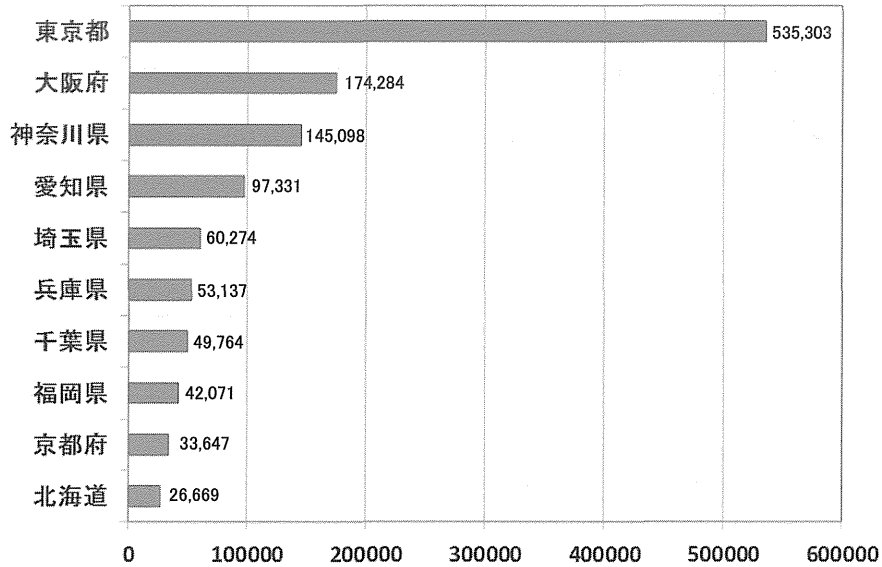


図10

検索エンジン 検索用語別表示順位

検索エンジン	検索用語別順位 (2012年11月 → 2013年11月)				
	HIV 検査	エイズ 検査	HIV	エイズ	AIDS
Google	1	1	2 → 4	5 → 2	8 → 7
Yahoo! JAPAN	1	1	3 → 3	6 → 3	9 → 11
bing	1	1	2 → 1	6 → 3	10 → 4

図11

参照元からのアクセス数 (2013年)

	参照元/メディア	アクセス数
1	Google	501,447
2	Yahoo! JAPAN	379,313
3	Direct access	312,057
4	Yahoo!ニュース	67,475
5	はじめての性病検査	18,026
6	bing	12,353
7	Yahoo!知恵袋	11,797
8	ドコモ	10,081
9	ko-mens.tv	4,969
10	gooブログ	3,308

図12

問い合わせ件数・内容 (2013年)

2013年 「HIV検査・相談マップへの」問い合わせ	50件
受検した検査施設の不安や苦情 (注射針、手袋、検査結果の信頼性、検査施設の対応)	11
HIV検査を受けるにあたっての質問 (地元以外の検査、保険証、検査費用、NAT、薬、生理中)	10
掲載情報の内容について	8
感染リスクから検査までの期間による結果解釈について	7
性的接触による感染リスクについて	6
性感染症検査を受検したい	5
バナー依頼	2
献血の検査体制について	1

10. 民間クリニックへの HIV 即日検査の導入支援および実施状況の解析

研究分担者 井戸田一朗（しらかば診療所）

研究協力者

小林米幸（小林国際クリニック）	尾上泰彦（宮本町中央診療所）
古林敬一（そねざき古林診療所）	大里和久（大里クリニック）
尾関全彦（尾関皮膚泌尿器科）	岩澤晶彦（岩澤クリニック）
保科眞二（保科医院）	上村茂仁（ウィメンズクリニックかみむら）
吉尾 弘（吉尾産婦人科医院）	江畑貴文（文化村通りクリニック）
多和田俊保（たわだ泌尿器科）	立山啓悦（ひろクリニック）
山中 晃（新宿東口クリニック）	山口眞澄（新宿山の手クリニック）
大原宏樹（池袋山の手クリニック）	鷺山和幸（さぎやま泌尿器クリニック）
谷口 恭（太融寺町谷口医院）	根岸昌功（ねぎし内科診療所）
白川裕一（八重洲山の手クリニック）	西原 仁（関内マリンクリニック）
清滝修二（セントラルクリニック伊勢崎）	川嶋敏文（川嶋泌尿器・皮膚科医院）
中村幸生（中村クリニック）	新井律夫（新井医院）
操 裕（操健康クリニック）	小田島純（新吉原診療所）
高橋雅弘（薬院高橋皮ふ科クリニック）	吉川琢磨（よしかわ耳鼻咽喉科）
小田健司（おだ内科クリニック）	角井 徹（すみいクリニック）
石川英二（石川クリニック）	伊藤 晋（あいクリニック）
黒須 謙（プライマリーケア東京クリニック）	内田千秋（あおぞらクリニック）
東條龍太郎（東條ウィメンズクリニック上大岡）	澤畑一樹（三菱化学 BCL）
近藤真規子（神奈川県衛生研究所）	佐野貴子（神奈川県衛生研究所）
川畑拓也（大阪府立公衆衛生研究所）	千々和勝己（福岡県保健環境研究所）
須藤弘二（慶応義塾大学医学部）	加藤真吾（慶応義塾大学医学部）
今井光信（田園調布学園大学）	

研究要旨

HIV 検査希望者にとって利便性が高い検査相談体制の一つである「即日検査」について、民間クリニックへの導入支援を行うとともに、実施施設での検査数、陽性数等の動向を調査した。本年度は新規導入が 4 箇所あり、研究協力クリニックの合計は 36 箇所となった。実施状況調査は 34 箇所について行った。本年度の検査数は 25,396 件と昨年と比較して 13% の増加となり、2001 年以降最高となった。陽性数は 87 件と昨年より 6% 減少し、陽性率も 0.34% と低い傾向にあった。その他クリニック（主に STI クリニック）のみの集計でも、検査数は増加したが、陽性数および陽性率は減少していた。クリニックでの確認検査陽性例の結果受け取りや医療機関の受診状況については、陽性例 87 例中 81 例（93%）が確認検査の結果を受け取っており、そのうち 89% は受診把握もされていた。多くの陽性者を早期の HIV 治療に結びつけたことは、検査提供者としての役割を十分に果たしていると思われる。

HIV の早期発見・早期治療に民間クリニックでの即日検査の実施は非常に効果的であり、今後も民間クリニックへの即日検査の導入を進めていきたいと考えている。

A. 目的

HIV 検査希望者にとって利便性の高い HIV 検査体制を構築することを目的として、民間クリニックへの即日検査の導入支援を行うとともに、実施施設における検査数や陽性数等の動向および陽性者のフォロー体制等を調査する。

B. 方法

HIV 検査に理解のある民間クリニックと連携して即日検査の導入支援を行った。新規の研究協力クリニックには直接訪問し、即日検査の説明や迅速検査キットのデモンストレーションを実地で行った。また、ホームページ「HIV 検査・相談マップ」に掲載するとともに、即日検査の判定保留例については確認検査等のフォローアップを行った。

研究協力クリニックには検査数等の報告を依頼し、年次動向を調査した。また、確認検査の陽性例の結果受け取り状況や保健所への届出等の状況、使用検査試薬および検査費用等の把握のためのアンケート調査を実施した。

C. 結果

本年度は新たに4箇所（東京2箇所、神奈川1箇所、仙台1箇所）が研究協力を希望し、研究協力クリニックは合計36箇所（札幌2箇所、仙台1箇所、群馬1箇所、埼玉1箇所、東京12箇所、神奈川6箇所、岐阜1箇所、愛知1箇所、京都1箇所、大阪4箇所、神戸1箇所、岡山1箇所、広島2箇所、福岡2箇所）となった（図1）。クリニック別では、婦人科クリニックが2箇所、女性専門STIクリニック1箇所、その他クリニック（主にSTIクリニック）が33箇所であった。今回はそのうち34箇所について即日検査の実施調査を行った。

クリニックでの即日検査導入を開始した2001年から2013年までの総検査数は192,438件、陽性数は884件（陽性率0.46%）となった（図2）。

2013年の即日検査数は25,396件であり、昨年と比較して13%の増加となり、2001年以来最高となった（図3）。しかし、陽性数は87件と昨年より減少し、陽性率も0.34%と例年より低下した。陽性的中率は63%、偽陽性数は51件（偽陽性率0.2%）であった（図4）。過去5年間の検査数が集計可能なその他クリニック（主にSTIクリニック）19箇所を集計すると、検査数は微増していたが、陽性数および陽性率は減少していた（図5）。また、東京都にあるその他クリニック（主にSTIクリニック）9箇所でも検査数が前年と比べ13%増加していたが、陽性数は24%減少していた（図6）。

2013年の検査数および陽性数を、女性の感染不安者や性産業従事者（CSW）の定期検診が中心の「婦人科クリニック・女性STIクリニック」と「その他クリニック（主にSTI）」に分けて解析した（図7）。婦人科クリニック・女性STIクリニックでは、検査数が8,081件であり、検査数は前年と比べて30%増加していた。検査の結果、全例が陰性であった。その他クリニック（主にSTI）では、検査数17,315件と前年比7%増であった。陽性数は87件、陽性率は0.50%であった。性別では、男性の検査数は13,520件、陽性数が86件（陽性率0.64%）、女性では検査数が3,768件、陽性数は1件（陽性率0.03%）であった。

2013年の陽性87例の性別は男性が86例、女性が1例、国籍は日本国籍が78例（男性77例、女性1例）、外国籍が9例（男性9例、女性0例）であった（図8）。確認検査の陽性例の結果受け取り状況や保健所への届出状況等についてのHIV検査に関するアンケート結果では、陽性87例中81例（93%）が確認検査結果を受け取っていた（図9）。このうち29例は自施設で経過観察、43例は紹介医療機関への受診が確認されており、合わせて72例（89%）については結果通知後の経過が把握されていた。また、保健所への届出は、73例（84%）が自施設より届出を行っていた。

施設別のHIV検査陽性者のフォロー状況については、拠点病院への紹介を行っているクリニックが27箇所、自施設で経過観察（症状が悪化した場合は拠点病院へ紹介）が5箇所、陽性例なしが2箇所であった（図10）。

保健所への発生動向調査の届出については、届出を行っているクリニックが24箇所、紹介先に届出を依頼しているのが7箇所、場合によるとの回答が3箇所であった（図11）。

HIV迅速検査に使用しているHIV検査試薬については、ダイナスクリーン・HIV-1/2（以下ダイナスクリーンと略）が23箇所、エスプライン HIV Ag/Ab（以下エスプラインと略）が3箇所、両方使用が8箇所であった（図12）。両方と答えたクリニックでは、感染リスクからの期間によって使い分けているとの回答が多かった。

HIV検査費用については、HIV抗体検査は3,000円～8,400円（中央値5,000円）、HIV抗原抗体検査は2,000円～10,500円（中央値5,625円）、HIV-1 NATは1,050～16,800円（中央値10,000円）であった（図13）。

HIV迅速検査を実施するケースについて聞いたところ（複数回答可）、患者さんが希望した時に実施するクリニックが34箇所（100%）、性感染症を診断した時に実施するクリニックが15箇所（44%）、その他HIV感染を疑う場合にも実施している施設が5箇所（15%）であった（図14）。

D. 考察

本年度は4箇所が新たに研究協力クリニックとして加わり、合計36箇所となった。うち34箇所の検査数は25,396件と、前年と比較して13%の増加となった。これはCSWを中心に検査を行っている女性STIクリニックの検査数増加が大きい、その他クリニック（主にSTI）でも検査数は増加していた。しかし、陽性数および陽性率は昨年を下回っており、感染例が減少しているのか、あるいは検査未受検層

が拡大しているのか、今後の推移を注視する必要があると思われる。また、CSWの定期検診が中心の婦人科クリニック・女性STIクリニックでは、女性8,081人中、陽性数は0件であり、日本におけるCSWのHIV感染率の低さが示唆された。

クリニックにおける確認検査の陽性例の結果受け取り状況や保健所への届出等のフォロー状況については、おおむね良好と思われた。確認検査を受け取った人の89%は、その後の経過もフォローされており、HIV検査によって早期のHIV治療に結びついたことは、検査提供者としての役割を十分に果たしていると思われる。

迅速検査試薬については、2010年1月よりエスプラインが販売され、ダイナスクリーンとともに現在2試薬が使用可能となっている。クリニックでの使用試薬はダイナスクリーンが23箇所、エスプラインが3箇所、両方使用しているクリニックも8箇所あった。両方使用の8箇所は、受検者の感染リスクから検査までの時期によってダイナスクリーンと使い分けていた。ダイナスクリーンは第3世代試薬、エスプラインは第4世代試薬であることから、感染リスクから検査までの期間が短い場合にエスプラインを使用する傾向にあるが、2つの迅速検査試薬の陽転時期の差は5日～1週間程度であること、感染リスクより1か月未満の場合は検査で陰性になることも多いことから、判定が陰性であった場合には、3ヶ月以降の再検査について受検者に勧めることを確認する必要があると思われた。

民間クリニックは有料にも関わらず多くの受検者が即日検査を受けており、医療機関であることの安心感や場所・受付時間帯の利便性等から、検査希望者にとって検査を受けやすい施設の一つとなっている。STIクリニックは他の性感染症に罹患している人も多く来院することから、HIVの早期発見・早期ケアに繋げるためには医療機関における即日検査

の導入は非常に効果的であると思われる。今後も研究協力クリニックが無い地域への導入や感染リスクが高い層への検査誘導、作成資材「開業医だからこそできる HIV 即日検査」を用いた PITC の強化等を積極的に展開していきたい。

英樹、脇田隆字、しらかば診療所で経験した、HIV陽性者における急性C型肝炎の集団発生について。第27回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本市、2013年

E. 研究発表

原著論文

1. Kondo M, Lemey P, Sano T, Itoda I, Yoshimura Y, Sagara H, Tachikawa N, Yamanaka K, Iwamuro S, Matano T, Imai M, Kato S, and Takebe Y.: Emergence in Japan of an HIV-1 variant associated with MSM transmission in China: First indication for the international dissemination of the Chinese MSM lineage.: J Virol. 2013;87: 5351-5361.
2. 井戸田一朗, 星野慎二, 沢田貴志, 佐野貴子, 上田敦久, 加藤真吾, 今井光信: コミュニティーセンター「かながわレインボーセンターSHIP」の夜間 HIV/STIs 即日検査を受けた MSM (men who have sex with men) の特徴及び罹患率. 日本公衆衛生学雑誌 60(5):253-261, 2013.
3. 佐野貴子, 近藤真規子, 吉村幸浩, 立川夏夫, 相楽裕子, 井戸田一朗, 山中晃, 須藤弘二, 加藤真吾, 今井光信: HIV-1 p24 抗原検出感度が向上した改良型 HIV 抗原抗体同時検出試薬の検討. 感染症学雑誌 87(4):415-423, 2013.

学会発表

1. 井戸田一朗, 星野慎二, 佐野貴子, 近藤真規子, 金子典代, ハッテン場における HIV感染リスク低減に向けた意識行動調査。第27回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本市、2013年
2. 井戸田一朗, 加藤康幸, 青柳東代, 相崎

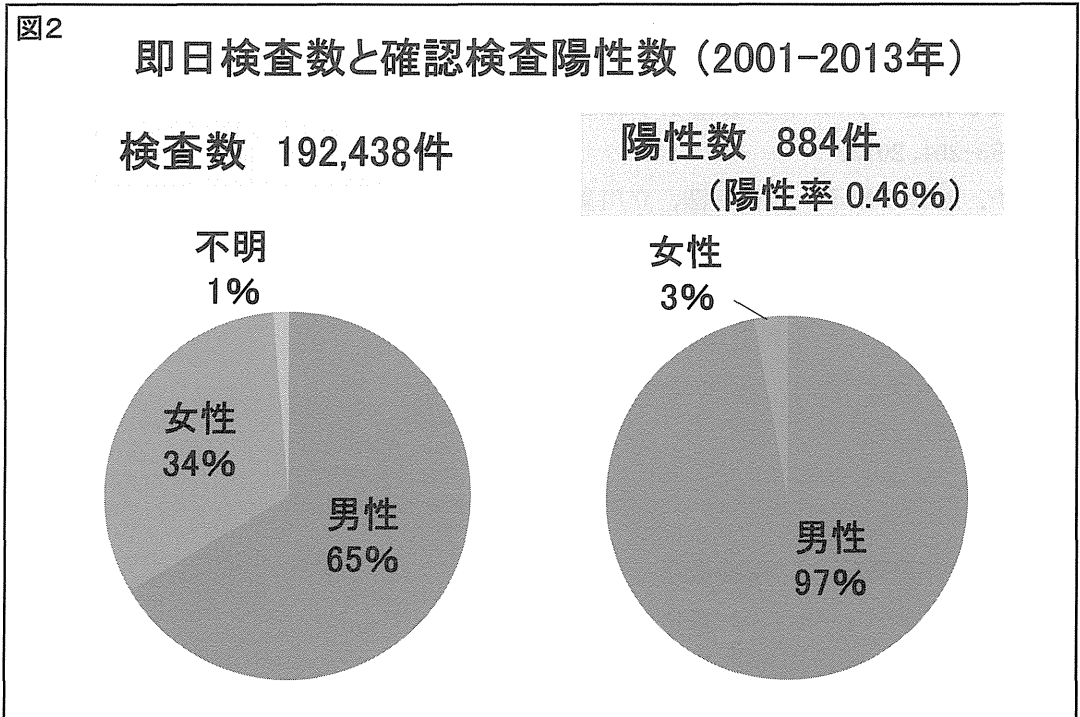
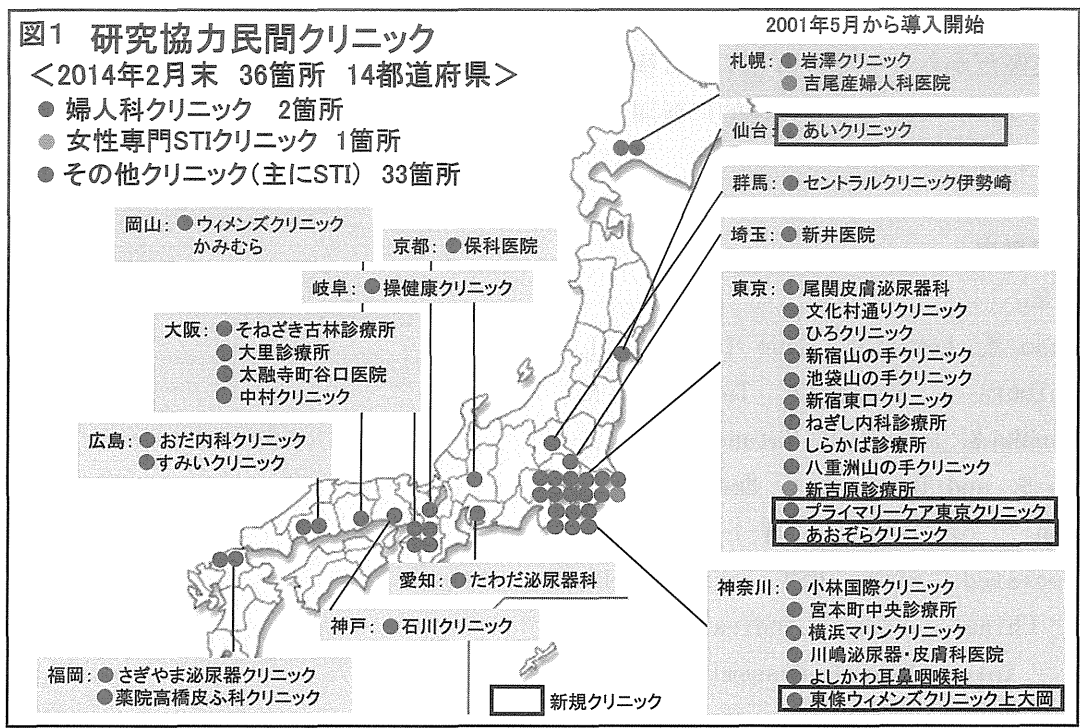


図3 即日検査数と確認検査陽性数の年次推移（2001-2013年）

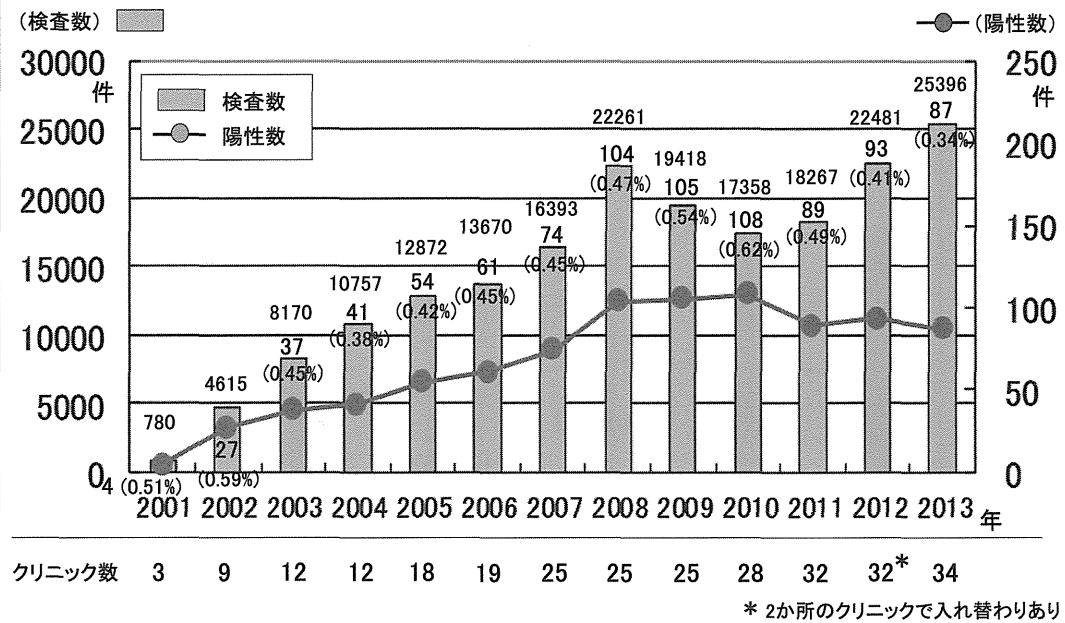


図4 即日検査数、判定保留数、陽性数（2013年）

検査数 25,396件（男性54%, 女性46%）

即日検査判定保留数 138件

確認検査陽性数 87件（陽性率0.34%, 男性99%, 女性1%）

陽性的中率 63%

偽陽性数 51件（偽陽性率0.2%）

図5

即日検査数と確認検査陽性数の推移（2008～2013年）

その他クリニック(主にSTI) 19箇所

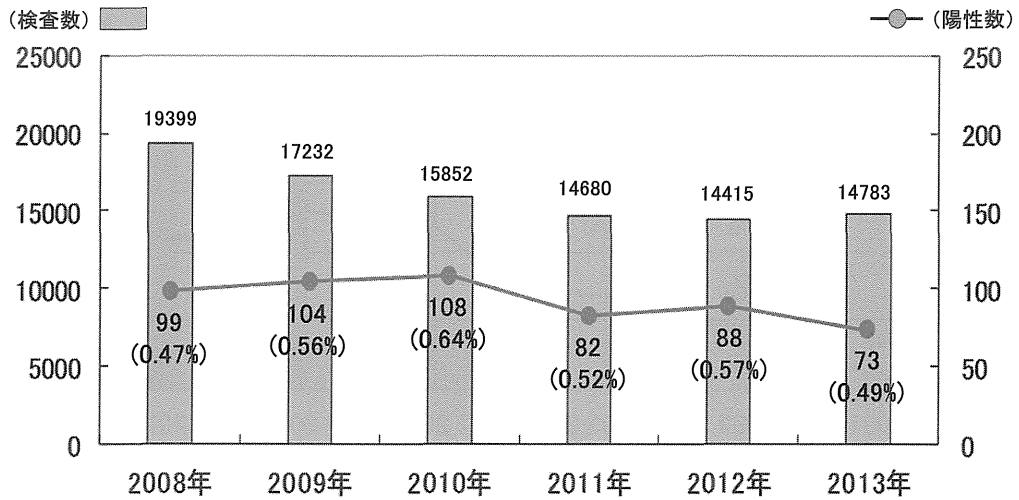


図6

即日検査数と確認検査陽性数の推移（2008～2013年）

東京 その他クリニック(主にSTI) 9箇所

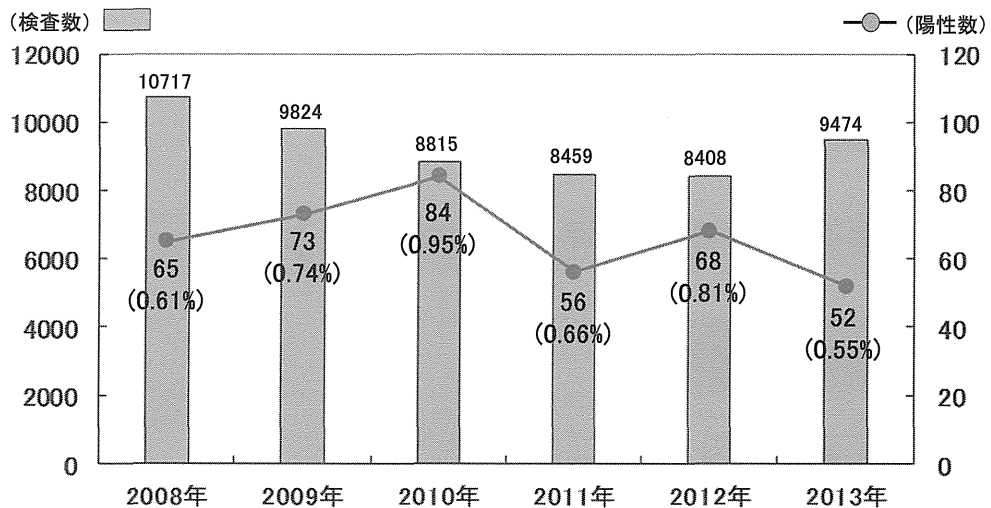
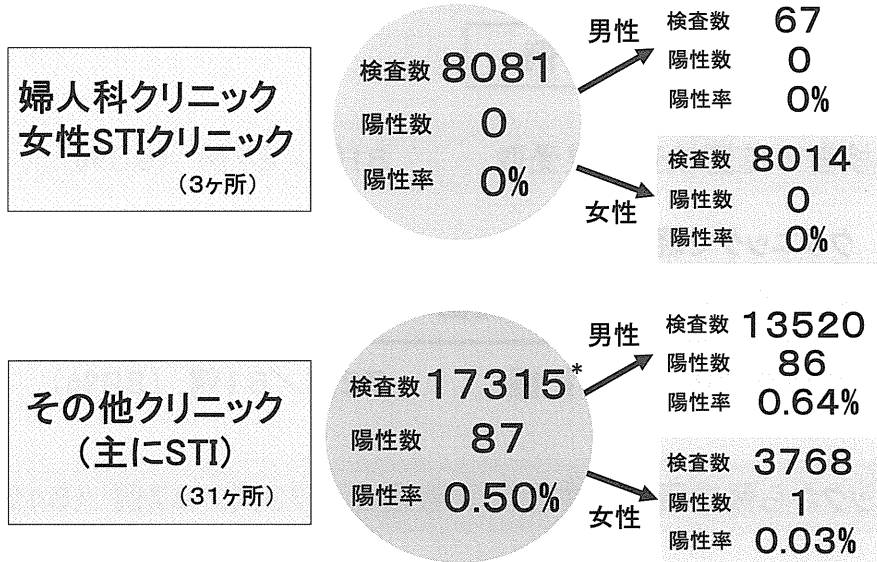


図7

クリニック別・性別での検査数と陽性数 (2013年)



** 27例は性別不明

図8

クリニックでのHIV検査陽性者の性別・国籍 (2013年)

HIV検査陽性者 87例			
◇ 国籍・性別	日本国籍	男性 77例 / 女性 1例	
	外国籍	男性 9例 / 女性 0例	

【国籍・性別割合】

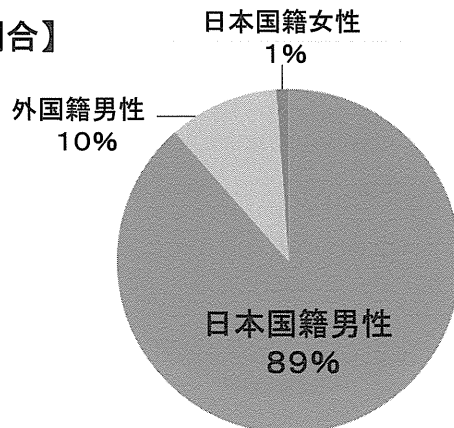


図9

クリニックでのHIV検査陽性者のフォロー状況（2013年）

HIV検査陽性者 87例

受検者の確認検査結果受取 81例／87例（93%）

クリニックで経過観察 29例／81例（36%）

紹介医療機関への受診確認 43例／52例（83%）

結果通知後の受診把握 72例／81例（89%）

クリニックから保健所へ発生動向調査届出 73例／87例（84%）

図10

HIV検査陽性者のフォロー状況（施設別）

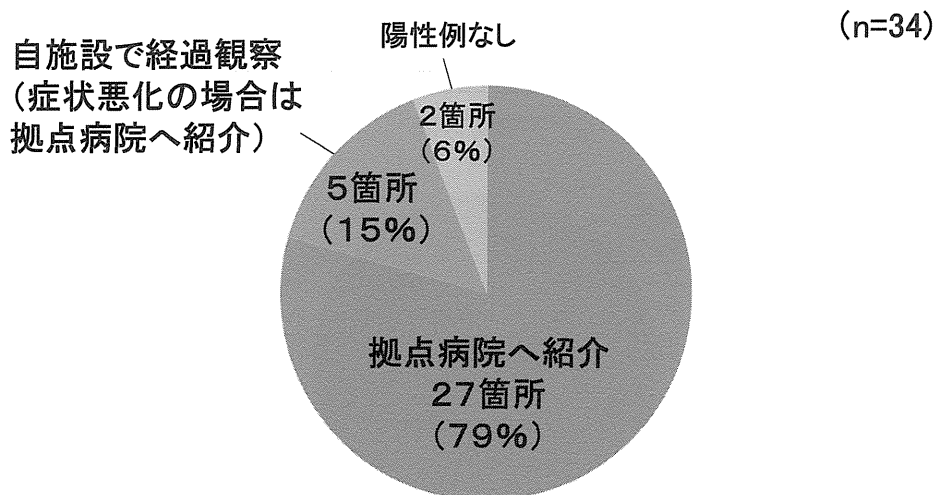


図11 HIV確認検査で陽性となった場合、管轄保健所への発生動向調査届出状況（施設別）

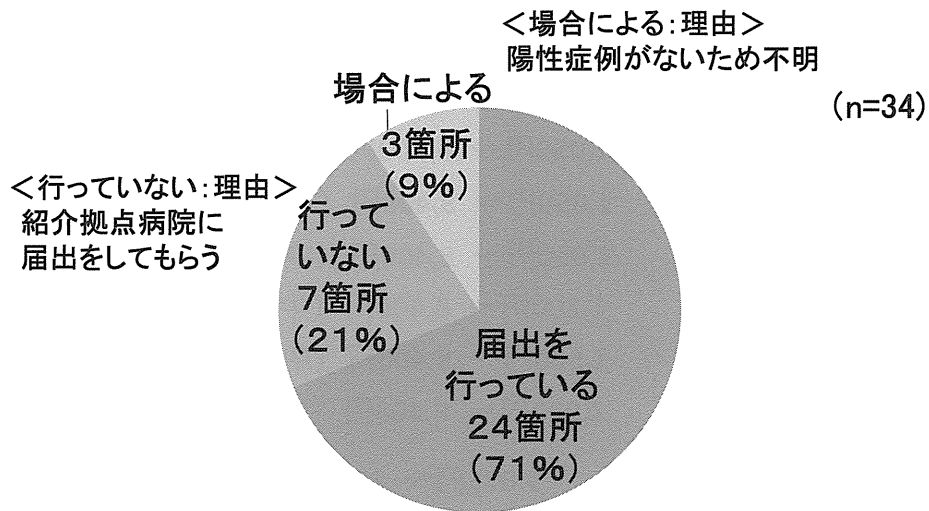
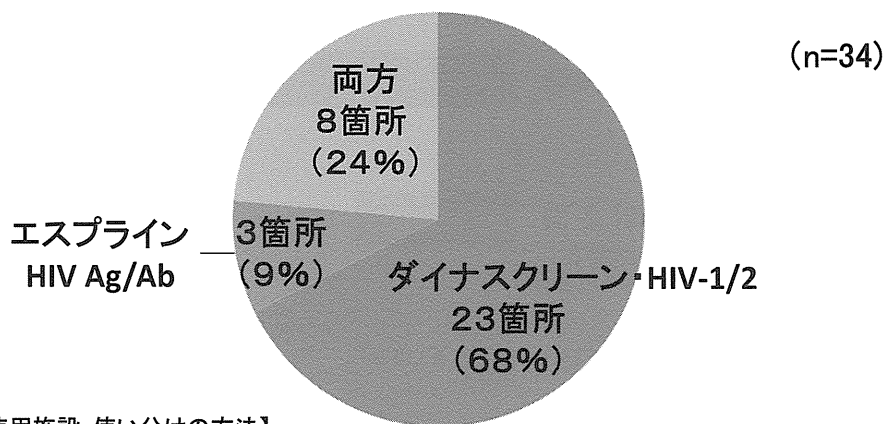


図12 迅速検査に使用しているHIV検査試薬(施設別)



【両方使用施設：使い分けの方法】

- ・ 感染リスクから4～7週間以上→エスプライン、8週間以上→ダイナスクリーン
- ・ 感染リスクから3か月未満→エスプライン、3か月以上→ダイナスクリーン
- ・ 感染機会からの日数
- ・ 偽陽性が出た時

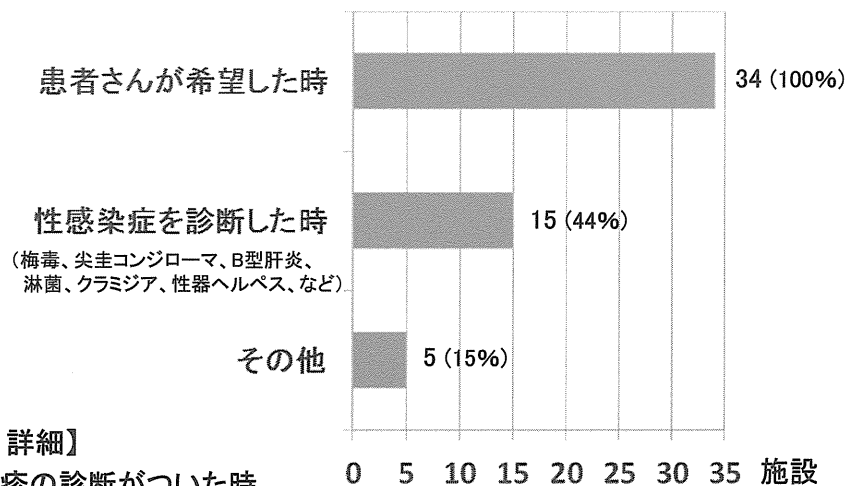
図13

HIV/STI検査の自費診療の費用(診察代等を含む)

HIV抗体	3,000円～ 8,400円 (中央値 5,000円)
HIV抗原抗体	2,100円～10,500円 (中央値 5,625円)
HIV-1 NAT	1,050円～16,800円 (中央値 10,000円)
梅毒抗体	1,050円～ 8,400円 (中央値 3,000円)
B型肝炎抗原	1,050円～ 8,400円 (中央値 4,000円)
C型肝炎抗体	1,200円～ 8,400円 (中央値 4,000円)
クラミジア抗原	1,500円～ 8,400円 (中央値 4,750円)
淋菌抗原	2,000円～ 8,400円 (中央値 4,850円)
HIV・B型肝炎・梅毒セット	3,675円～ 16,800円 (中央値7,250円)

図14

研究協カクリニックにおけるHIV検査の実施ケース



【その他:詳細】

- ・ 帯状疱疹の診断がついた時
- ・ 原因不明の高熱または皮膚病変
- ・ 症状からHIVを疑った時

11. MSM を対象とした、HIV/STIs 即日検査相談の実施及び、

唾液検査による HIV 検査相談機会の拡大の可能性に関する研究

研究分担者 井戸田一朗（しらかば診療所）
研究協力者 星野慎二（特定非営利活動法人 SHIP）
上田敦久（横浜市立大学附属病院 リウマチ・血液・感染症内科）
相楽裕子（東京都保健医療公社豊島病院感染症内科）
吉村幸浩（横浜市立市民病院 感染症内科）
沢田貴志（港町診療所）

研究要旨

MSM (men who have sex with men)を限定とした HIV/STIs 即日検査相談を実施することにより、検査相談を受検した MSM の特徴と背景及び、HIV 感染率の推移を把握し、受検者の特徴と背景、HIV 感染率を明らかにすることで、神奈川県地域の MSM に対する HIV/STIs 予防対策の策定に有用な情報を得る事を目的とする。また、OraQuick による唾液検査結果と、従来の HIV 検査結果とを比較し、性能評価及び受け入れやすさを調査することで、わが国において HIV 検査相談機会の拡大に繋がる可能性のある方法の一つとして認識されることの可能性を探る。

2013 年 4 月から 2014 年 1 月まで毎月 1 回（11 月を除く）、計 9 回実施し、83 件の検査相談を実施した。陽性者数は、HIV 抗体（確認検査で確認）2 名（2.4%）、梅毒 TP 抗体 14 名（16.9%）、HBs 抗原 1 名（1.2%）であった。受検者の背景は、MSM が 98.8%、神奈川県内居住者が 77.1%を占め、最多年齢層は 20-24 歳（24.1%）であった。過去に HIV 検査受検歴があった 66 名において、SHIP の検査相談を過去に受検したことがある受検者は 33 名（50.0%）であり、SHIP の検査相談は、MSM に親しまれ長期に利用されるサービス枠組みを有すると示唆された。受検後アンケートで、次回即日検査を受検する際、OraQuick を選択すると答えた人は 60.5%であり、MSM の検査機会の増加につながる可能性が示唆された。また、当検査の検査希望者は年間 157 件であったが、定数のため、74 件に対し他の検査機関を案内せざるを得なかった。そのため、10 月から 1 回の定員を 9 名から 10 名に増加し、3 月からは別な会場において検査の回数を増やすことを検討しているが、会場が公共の会議室を利用しているため継続した会場の確保が今後の課題である。

A. 研究目的

厚生労働省エイズ発生動向における感染経路別割合では男性同性間の性的接触が約 7 割を占めているが、こうしたことが起こる背景としては、MSM の多くは自分が同性愛者であることを学校や職場の仲間、家族にも伝えることができず、自分自身のことを隠し偽り、“異性愛者”を装って生活している。そのこと

がストレスとなり、成人後のメンタルヘル스에大きく影響し、HIV 感染リスクの高い性交渉との関連が先行研究で指摘されている。

また、MSM の中には過去に HIV 検査を受けたことがありながら感染してしまう人が少ない。このように検査のリピーターが感染してしまう背景には、情報や知識だけでは行動変容に結びつかないことが多い。行動変容

を起こしてもらうためには検査のときのカウンセリングを通じて自己の行動を振り返る作業が重要と考えられる。

本研究では、横浜市内でMSM向けコミュニティセンターの運営で実績のある特定非営利活動法人SHIPの協力を得て、MSM向けの自発的HIV/STIs即日検査相談(HIV抗体、梅毒TP抗体、HBs抗原)を実施し、その受検者の特徴と背景を明らかにし、HIV感染率の推移を把握する。また、OraQuick(唾液によるHIV抗体検査)を用いて、日本におけるHIV検査相談機会の拡大に繋がる可能性のある方法の一つとして、その実施の可能性を検討することを目的とする。

B. 研究方法

今年度に引き続き横浜市西公会堂の会議室を月1回借りて検査を実施してきた。

この西公会堂の施設は、一般利用の場合は3ヶ月前からの予約となるため長期的な計画を立て難い。そのため横浜市保健福祉局からの後援名義申請を得る事により先行予約で1年間の場所の確保している。

検査相談1回あたりの受検者数の定員は9名(10月以降は10名)。電話もしくはメールによる予約制とし、受検者同士が顔を合わせる機会を最小限にする配慮をした。検査前に下記の項目を含むアンケートを実施した。属性、肝炎ワクチン接種有無、HIV検査受検歴の有無、心配な性的接触の内容等。インフォームド・コンセントを得た後、看護師による検査前の相談と採血を実施。また、OraQuickの検査に同意した受検者に対しては、OraQuickの使用方法を説明し、受検者自身で唾液を採取してもらう。

その後、臨床検査技師による検査を施行後、医師による結果告知と検査後相談を実施した。

HIV抗体検査にはダイナスクリーン[®]HIV-1・2を、梅毒検査にはダイナスクリーン[®]TP抗体を、B型肝炎検査にはダイナスクリー

ン[®]HBsAgを用いた。

ダイナスクリーン[®]HIV-1・2が陽性だった場合は、Western Blot法及びpolymerase chain reaction法による確認検査を慶應義塾大学医学部にて追加して実施し、検査相談実施1週後に確認検査結果を医師がSHIPの事務所で受検者に告知した。

(倫理面への配慮)

本調査は、慶應義塾大学医学部の倫理審査委員会で審査承認された上で実施した。

また、対象者には事前に本分担研究の目的と研究報告書等に記載することを説明してから実施した。また、本検査相談は無料匿名であり、さらに回答者自身のプライバシーへの配慮のため、アンケートの集計にあたっては、数値化することにより、個人に結びつかないよう配慮している。

C. 研究結果

(1) HIV/SITs 即日検査相談実施回数及び件数

2013年4月から2014年1月まで毎月1回、計9回実施した。

9回の検査で157件の検査相談希望があったものの、定数のため、実際に検査相談を提供できたのは83件であった。検査相談を提供できなかった74件の希望者には、他の検査機関を案内した。

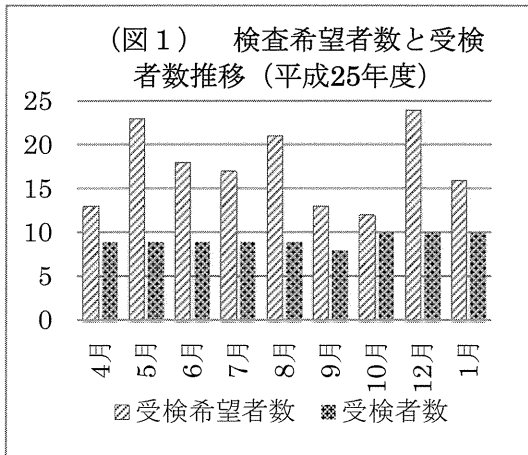
年間の検査回数、定員、検査希望者数の昨年度との比較は(表1)の通りである。

(図1) 検査希望者数の年次比較

年度	回数	定員	検査希望者	定員に対する割合
24年度	9	81	141	174%
25年度	9	84	157	187%

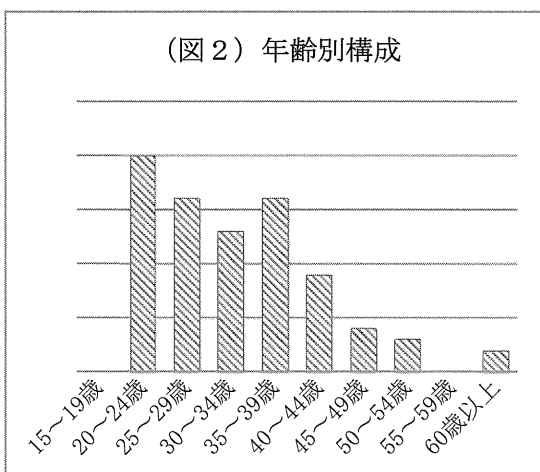
* 25年度は1月までの実施状況

毎月の検査相談希望者数と受検者数の推移は（図1）の通りである。



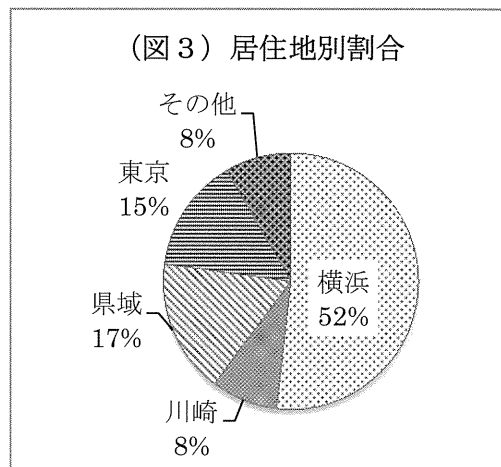
(2) 受検者背景

当検査における検査相談の新規受検者の年齢分布を（図2）に示す。最多年齢層は20-24歳代20名（24.1%）であり、15-19歳代の受検者は0名であった。セクシュアリティは、MSMが82名（98.8%）であった。居住地では、横浜市が43名（51.8%）と最多であった。（図3） 神奈川県内居住者（横浜・川崎・県域）が64名（77.1%）を占め、県外では東京14名（16.9%）、その他7名（8.4%）であった。神奈川県地域に居住するMSMの利用が多く見られたが、その一方で千葉や埼玉など遠方からの利用者が7名（8.4%）占めていた。（図3）



HIV検査が初回検査であった受検者は、17名（20.5%）であった。HIV検査受検歴があった66名において、最後にHIV検査を受けた場所は、保健所20名（30.3%）、医療機関7名（10.6%）、東京都南新宿検査相談室3名（4.5%）、イベント等の検査2名（3.0%）、医療機関3名（5.6%）であった。当検査場を複数回以上受検した者は33名（50.0%）であった。

また、前回検査を受けた時期では、6ヶ月以内18名（27.3%）、1年以内14名（21.2%）、2年以内12名（18.2%）、2年以上前22名（33.3%）であった。



(3) HIV/STIs 検査結果

陽性者数は、ダイナスクリーン®によるHIV抗体（後に確認検査で陽性と確認）2名（2.4%）、梅毒TP抗体14名（16.9%）、HBs抗原1名（1.2%）であった。OraQuickによるHIV抗体は2名（2.4%）であった（ダイナスクリーン®HIV-1・2陽性者と同一人物）。

HIV陽性者の2名は何れも25～29歳代で、過去2年以内にHIV検査の受検歴があり、今回の検査でHIVとTPHAが陽性であった。

この2名に対し、HIV診療を熟知している医師が丁寧に説明を行ない、希望する医療機関を紹介した。医療機関からの

受診報告により、告知から1週間以内に医療機関を受診したことが分かった。

(4) OraQuickに関するアンケート調査

検査終了後に OraQuick の利用についてアンケート調査を行なったところ(添付資料)、唾液による迅速検査を受けた感想では「唾液による検査は採血が不要なので良い」に印を付けた人が 57 件 (69.5%)、「唾液に夜検査が本当に信用できるかが心配」30 件 (36.6%)、「血液検査の方が安心できる」23 件 (28.0%)であった。

また、HIV 即日検査が唾液でも行なえるようになったらどちらを希望するかとの質問で、唾液が 48 件 (58.5%)、血液が 30 名 (36.6%)、両方が 4 名 (4.9%)であった。

D. 考察

(1) MSM 限定の HIV/STIs 検査

SHIPが提供する検査相談を過去に2回以上受けたことある人が全体の39.7%を占めていた。また、事後アンケートにおいて90%以上がSHIPの検査を知人にすすめたいと答えていることから、利用者の満足度は高く、MSMに親しまれ長期に利用されるサービス枠組みである可能性が示唆される。

その一方で、毎回の検査希望者が定員を超えていることから、ニーズに応えるには検査回数の増加が必要とされる。しかし、SHIPは専用の検査施設を持っていない。検査相談に用いる多岐に渡る物品と資材は、通常はSHIPの事務所で保管され、検査の度に、少ない人的資源で、検査会場に運搬・移動・設置している現状では、検査回数を増やすことは難しい。そのため、上記を解決できる新たな検査施設を探すことが今後の課題とされる。また、パートナーや友人同士で受検する

人が毎回1組~2組いることから、いかにプライバシーを確保するかが今後の課題である。

(2) OraQuick と従来の血液検査の比較

HIV 即日検査が唾液でも行なえるようになったらどちらを希望しますかの質問で約6割の人が唾液検査を希望すると答えている。また、血液検査を希望すると答えた人のほとんどが唾液の精度に不安を感じている一方で、「唾液での検査は採血が不要なのでよい」という感想を持っていることから、唾液検査の精度の周知が広まれば唾液検査の希望が増えることが示唆できた。

E. 研究発表

論文発表

1. 井戸田一朗、星野慎二、沢田貴志、佐野貴子、上田敦久、加藤真吾、今井光信、コミュニティセンター「かながわレインボーセンターSHIP」の夜間 HIV/STIs 即日検査相談を受けた men who have sex with men の特徴及び罹患率、日本公衆衛生雑誌. 60:253-261. 2013

学会発表

1. 井戸田一朗、星野慎二、佐野貴子、近藤真規子、金子典代、ハッテン場における HIV 感染リスク低減に向けた意識行動調査。第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本市、2013 年
2. 井戸田一朗、加藤康幸、青柳東代、相崎英樹、脇田隆宇、しらかば診療所で経験した、HIV 陽性者における急性 C 型肝炎の集団発生について。第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本市、2013 年
3. 星野慎二、井戸田一朗、日高康晴、加藤真吾、白阪琢磨、MSM 商業施設の訪問経験がない若年層を対象にした行政・教育・医療連携による多目的支援施設のあ

り方の検討。第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本市、2013 年

4. 星野慎二、井戸田一朗、上田敦久、相楽裕子、佐伯理恵、鈴木宣子、平岡真理子、川崎市における MSM を対象とした無料 HIV/STIs 検査相談結果について。第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本市、2013 年

(添付資料)

HIV 即日検査と唾液迅速検査に関するアンケート集計 (平成 25 年度)

期 間： 2013 年 4 月～2014 年 1 月 (検査回数 9 回)

回収数： 82 件 (配布数 83、回収率 98.7%)

問 1. あなたの年齢を教えてください。

(n=82)

10 代	0	0%
20 代	35	42.7%
30 代	29	35.4%
40 代	13	15.9%
50 代	3	3.7%
60 才以上	2	2.4%
計	82	100.0%

問 2. 唾液の迅速検査を受けてみてどう思われましたか？ (複数回答)

(n=82)

1. 唾液での検査は採血が不要なのでよい	57	69.5%
2. 唾液での検査結果は信用できる	11	13.4%
3. 唾液での検査が本当に信用できるか心配	30	36.6%
4. 血液検査の方が安心できる	23	28.0%
5. その他	7	8.5%

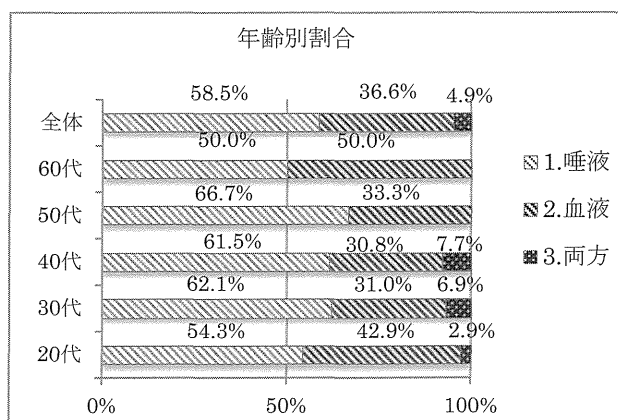
【自由記述】

- 唾液と血液2つの検査の方が安心するかな
- 即日の場合は唾液、精密検査は血液というように分けた方がいいのかなと思いました。ただ、B型肝炎等、他の性病が調べられるのか疑問。
- 薬局でキットをもらって自分でできるようになると伺い、それは便利だと思いました。
- 特に何も思わない
- わからない
- 二種あってもよい
- ちょっと心配。精度による。

問 3. HIV 即日検査が唾液でも行えるようになったら、あなたは唾液での検査と血液での検査で、どちらの検査を希望すると思いますか？

(n=82)

1. 唾液	48	58.5%
2. 血液	30	36.6%
3. 両方	4	4.9%
計	82	100.0%



問4. あなたは保健所でHIV即日検査を無料でやっているのを知っていますか？

(n=81)

1. はい	73	90.1%
2. いいえ	8	9.9%
計	81	100.0%

★唾液検査に関するコメントがあれば、是非、書いてください。何でも結構です★

- 即日中に結果が分かるのは、気軽に検査を受けようと思える大変いいことだと思います。
- 広く浸透すると良い。
- HIVだけではなく梅毒、B型肝炎の検査も即日で出来るのは本当にありがたいです。
- ありがとうございます。
- 願わくば、第三者とお会いすることの無いようにしていただけたらと思います。お互い大人ですから、干渉することもないでしょうけど。
- HIVやAIDSについて勉強する良い機会になりました。
- 性に対する意識がオープンになっている現代で、このような検査があることは非常に良い事だと思います。更に多くの場所や機関で機会が増えることを希望します。
- 血液と唾液両方でやると確実なんだろうと思いました。
- 定期的に受けた方がいいと思います。
- 採血後の絆創膏が選べたら面白いかもしれません。くだらないことですが。
- 手軽に出来てよかったです。ありがとうございます。
- 検査手法の違いがいつもわかりづらいと思う。
- 唾液と思ったものの、せっかく行くならHIV以外も調べられる方法を選ぶと思います。
- 特になし
- 無料な上、みなさん親切に接してくださり本当に感謝しております。ありがとうございます。
- HIVの具体的な症状がわからない。
- 手軽でよかったです。
- 対応の仕方的印象が変わらないので、親切なことに越した事はないと思いました。ありがとうございました。
- 無料でやっていただけるのはありがたいです。アメリカでは唾液検査は信用されているのか知りたかったです。
- 唾液が日本でも販売されるといいと思う。
- 土日で即日検査が受けられる場所が増えるといいと思う